未来を拓く意欲に満ちた「愛荘っ子」の育成を目指して

令和8年度 全国学力・学習状況調査 調査結果から見る本町の子どもの姿

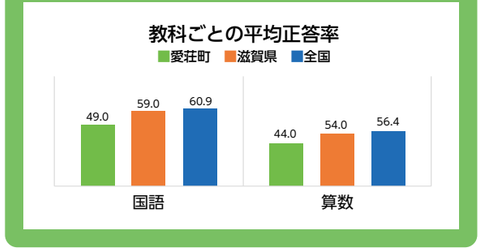


調査の目的

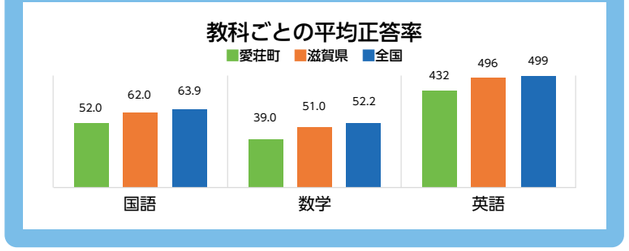
本調査は、個人の評価ではなく、教育の成果と課題を多面的に把握・分析し、指導や施策の改善に生かすことを目的に実施されています。本調査で測れるのは学力の一部であり、学校教育全体を示すものではありませんが、調査結果を検証し、子どもたちのより良い学びの実現に向けて、家庭や地域と連携して教育の改善に取り組みます。

学力による調査結果

小学校　教科ごとの平均正答率



中学校　教科ごとの平均正答率



愛荘町における重点の取組

基礎的読解力を育成する取組

- 「紙」と「デジタル」の“いいとこ取り”で学びをもっと豊かにします。
- 言語活動を充実させ授業改善を進めます。

しなやかでたくましい心身を育む取組

- 「自尊感情」*1と「自己調整力」*2のさらなる育成と自律した学びの確立に努めます。
- キャリア教育*3のさらなる充実を図ります。

自律の力を育む取組

「楽読書・活メディア」による学びの環境づくりを行います。



- 基礎・基本の定着を図り、あきらめずに最後まで考え抜く力を育成します。
- 小学校で実施している「40分授業・午前5時間制」の特色を生かし、自己調整学習や探究学習の充実を図ることで、児童が自ら学習計画を立て、主体的に学ぶ力を育成します。
- 中学校において探究的な学習や自治的な活動につながる資質・能力の育成を見据え、自ら課題を見出し、仲間と協働しながら解決する学習活動の充実を図ります。

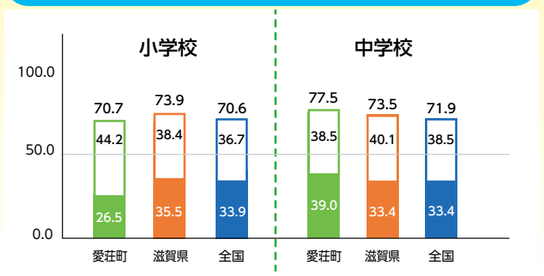


自尊感情を育む取組を継続して進めます

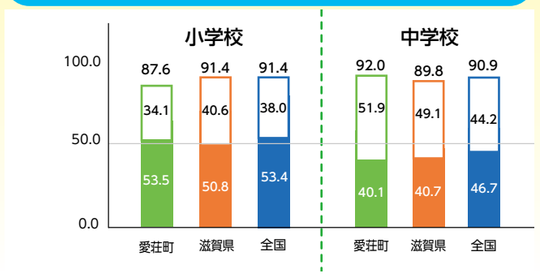
自尊感情が育つと、どのようなよさがあるのでしょうか？自尊感情が育まれることで
★失敗を恐れず、新しいことにチャレンジしようとする意欲が高まる
★周囲の人を大切にし、よりよい人間関係を築くことができる　★学習への意欲が高まり、学力の向上にもつながる
などの効果が期待されます。今後も、学校・園・家庭・地域が連携しながら、一人ひとりのよさや頑張りを認め、励ますことで、自尊感情を育む取組の一層の充実を図ります。

＊1 自尊感情　長所も短所も含め、自分自身がかけがえのない価値ある存在だと感じ、ありのままの自分を肯定的に受け入れる感覚。
＊2 自己調整力　「自分で目標を決めて、それに向かって考えたり行動したりしながら、うまくいっているかを振り返り、必要であればやり方を変えていく力」のこと。学習においても、生活においても重要であり、目標達成や問題解決、成長のために欠かせない力。
＊3 キャリア教育　一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

①困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

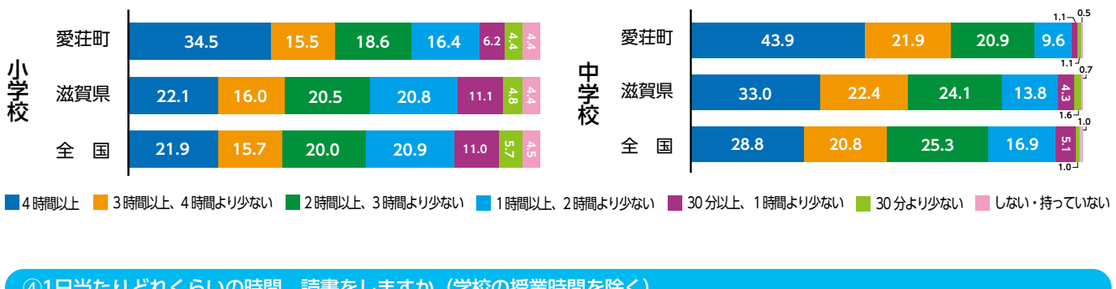


②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

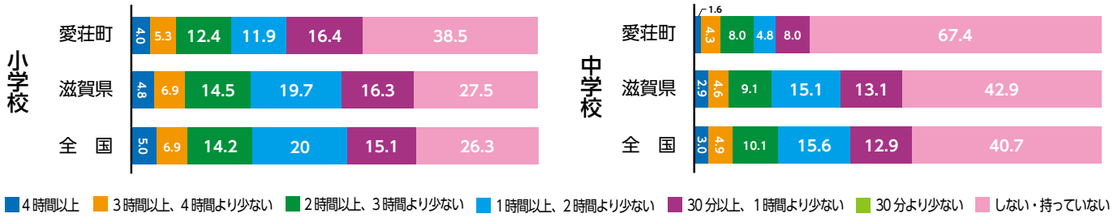


■1　当てはまる　□2　どちらかといえば、当てはまる

③平日、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか（学習時間、ゲーム時間は除く）

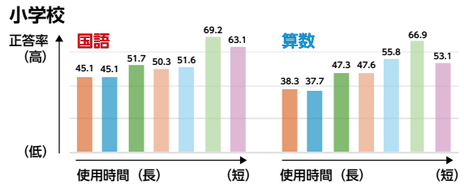


④1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（学校の授業時間を除く）



スマートフォン等の使用時間と各教科の平均正答率の関係は…

スマートフォンやタブレット、動画視聴などの時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が低い傾向が見られました。



（児童生徒質問紙）

楽読書　活メディア　～子どもたちが読書の楽しさを体感し、メディアと上手に付き合う力を身に付ける～

動画やSNS等からの短く、強く、感情を揺さぶられる情報は、子どもの注意をひきつけやすいものです。一方でそうした情報で時間を埋めてしまうことは、精神的な消耗につながり、じっくり考えるなど自分で次の行動を選び直す経験を奪うものと警鐘を鳴らす専門家がいます。

町では、これまでと同様に毎週水曜日を「ノーメディアデー」と位置付け、メディアコントロールを促すとともに、デジタルデトックス※を通して、子どもたちがメディアと上手に付き合う力を育んでいきます。また、「まちじゅう読書」の取組をはじめ、図書指導員との連携や学校図書館の効果的な活用、読み聞かせやビブリオバトルなどの活動を通して、子どもたちが本の楽しさや魅力を実感できる環境づくりを進めていきます。読書に親しむ時間を大切にしながら、自ら考えて時間を使う力を育み、豊かな学びにつなげていきます。

＊デジタルデトックス　デジタル機器から一定の距離を置いて使用しないことにより、心身のストレスを軽減し、健康的な生活を取り戻す試み。